

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報について（送付）

このことについて、平成30年度病害虫発生予察注意報第5号を発表しましたので、送付します。

注 意 報

平成30年度病害虫発生予察注意報第5号

農作物名	メロン、スイカ、キュウリ
病害虫名	メロン退緑黄化病、スイカ退緑えそ病、キュウリ退緑黄化病
病原ウイルス	ウリ類退緑黄化ウイルス Cucurbit chlorotic yellows virus ; CCYV
媒介昆虫	タバココナジラミ

- 1 発生地域 ウリ科野菜抑制作地域
- 2 発生時期 9月中下旬以降
- 3 発生程度 多

4 注意報発表の根拠

ウリ科野菜抑制作の退緑黄化病の発生リスクを判断するため、県内3地域（熊本、鹿本、菊池）で、8月にタバココナジラミの野外誘殺数およびCCYVの保毒率を調査した。

- （1）野外に設置している黄色粘着板（100cm²当たり）に誘殺されたタバココナジラミは、3.9頭/日/枚（平年2.1頭/日/枚）と平年に比べて多かった（図1）。
- （2）上記粘着板に誘殺されたタバココナジラミのCCYVの保毒虫率は、30.7%（平年21.2%）と平年と比べて高かった（図2）。
- （3）退緑黄化病の発生リスクの指標となる保毒虫数（誘殺数×保毒虫率）は、1.6頭/日/枚（平年0.4頭/日/枚）と平年より多く、調査を開始した平成25年度以降で最も多かった（図3、表1）。

5 防除対策

- （1）これから定植するほ場では、タバココナジラミを栽培ほ場に「入れない」対策を徹底する。施設のサイド開口部に目合い0.4mm防虫ネット、谷換気部に目合い1mm以下の防虫ネットで被覆する。すでに被覆しているハウスについては、被覆ビニルや防虫ネットに破損や隙間がないか点検し、必要に応じて補修する。
- （2）定植2～3日前に、タバココナジラミを対象に「育苗期」に登録のある薬剤を処理する。この時期に薬剤処理ができていない場合には、定植時に登録のある薬剤を必ず処理する。また、定植前処理剤の効果が低下する定植20～30日後に成虫に効果の高い薬剤を散布する。
- （3）育苗ハウスから苗を運ぶ際には、移動中にタバココナジラミが寄生しないよう、運搬車等の荷台を防虫ネットやほろ等で覆う。
- （4）タバココナジラミを施設内で「増やさない」対策を徹底する。現在栽培中のほ場では、

栽培終了まで、タバココナジラミの防除を継続して行う。

- (5) タバココナジラミを施設外に「出さない」対策を徹底する。夏秋栽培の終了後は直ちに密閉処理を行い、ほ場内のタバココナジラミを死滅させる。密閉できないほ場では、成虫に効果の高い薬剤で防除したうえで植物残さを早急に片付ける。
- (6) 施設内の発病株や周辺の野良生えは、重要な伝染源となるので除去する。
- (7) ウリ類周年栽培地帯におけるメロン退緑黄化病発生リスクは、5月から12月まで高い水準で推移する（[農業研究成果情報 No. 597\(平成 25 年 5 月\)ウリ類周年栽培地帯でのメロン退緑黄化病発生リスクの季節変動](#)）ので、今後も防除を徹底する。

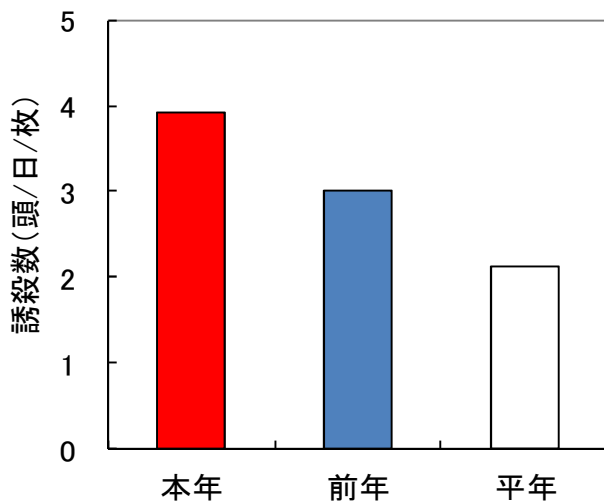


図1 ウリ科栽培地帯に設置した黄色粘着板によるタバココナジラミ成虫誘殺数

黄色粘着板（100 cm²当たり）をウリ科栽培地域に5～15日間、1地点当たり5枚設置。誘殺数は、1枚当たりの1日の誘殺数（頭/日/枚）。調査地域は3地域。※平成27年のみ2地域。平年値は、過去5年の平均

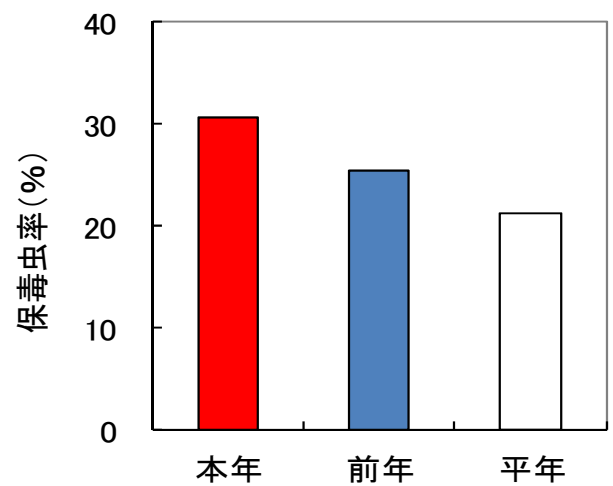


図2 粘着板に誘殺されたタバココナジラミ成虫のウリ類退緑黄化ウイルス保毒虫率

黄色粘着板に誘殺されたコナジラミをRT-PCRにより検査し、保毒虫率（保毒虫/検定数）を算出。検定数は1地域当たり50頭。※調査地域及び平年値は図1に準ず。

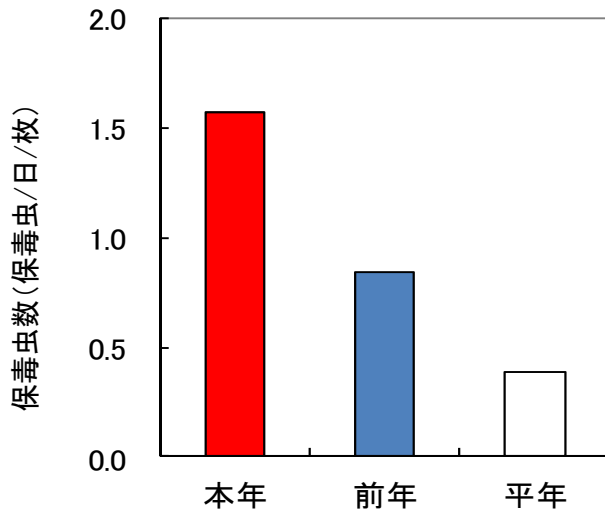


図3 ウリ科栽培地帯のタバコナジラミ成虫の保毒虫数

保毒虫数(保毒虫/日/枚)は、誘殺数(頭/日/枚)×保毒虫率(保毒虫/検定数)。※調査地域及び平年値は図1に準ず。

表1 各調査年の保毒虫数

調査年	H25	H26	H27	H28	H29	H30	平年 (H25~29)
保毒虫数	0.15	0.22	0.36	0.38	0.84	1.57	0.39

熊本県農業研究センター 生産環境研究所
 病害虫研究室 予察指導係 (病害虫防除所)
 担当：斉藤、春山 TEL：096-248-6490